# 第９８回　まちづくり塾記録

「まちづくりセンター」から「市民協働センター」へ

平成22年3月28日（日）13：30～15：00

◆浜松まちづくりセンターのこれまでの歩み（浜松まちづくりセンター　センター長　石川）

浜松まちづくりセンターは、都市計画やまちづくりの普及啓発、相談窓口、具体的な支援を目的に、平成14年4月にオープンし、市民協働推進条例が出来てからは、市民協働という位置づけも担ってきた。

当初は、まちづくりといってもなかなか入りづらく認知度は低かったが、いろいろな方と付き合いをさせていただくなかでだいぶ定着し、まちづくりの相談、支援についても数え切れないが大体30地区に及び、今でも継続して行っている地区もある。

これまで、利用者や関係団体の方々の協力のおかげでやってこられた。厚く御礼申し上げたい。

また、我々、浜松まちづくり公社という財団が指定管理を行ってきたが、地域のまちづくり活動の支援、普及啓発、都市計画は、「浜松まちづくり推進センター」として引き続き行っていく。みなさんとも今まで通りやっていきたいと考えているので相談や困り事があったら是非イーステージの事務所へお越しいただければと思う。

◆4月からはどうなる？　新・指定管理者の紹介（市民協働サポートグループ　代表　山内）

市役所から、「浜松市市民協働センター」として再スタートすることを聞き、共同事業体（浜松市市民協働サポートグループ）を組みエントリーして指定管理者になった。組織は、2つの会社（東海まちづくり研究所、東海ビル管理）と2つのＮＰＯ（魅惑的（エキゾチック）倶楽部、地域づくりサポートネット）の4団体で構成し、私はその代表を務めている。それぞれの強み、弱みを補いながら管理運営を行っていきたい。

今日は、どんなセンターにするのか、顔見せも兼ねて紹介する。

◆市民協働センターのこれからについて（浜松市市民協働センター　センター長　長田（魅惑的倶楽部））

私がどういう人物かや、ＮＰＯが入ったことを心配している人がいると思う。正直、自分が立ち上げたＮＰＯは子どものようにかわいく辞めようとは思っていない。ＮＰＯの活動をする時は休暇を取って関わっていきたいと思っているが、自分が関わるＮＰＯの活動をここでガンガンやろうとは一切考えていない。その事をまずはお話し、ここからは、指定管理を決めるときに行ったプレゼンテーションの一部を紹介する。

浜松市市民協働センター事業計画案について

１．人材育成事業等について

1）浜松地域人づくり塾の開催

市役所の仕様書に『人材育成事業をしてください』という項目があり、そこで私たちは、まず静岡県を知り、静岡県の中で浜松は何が出来るのか、浜松の中で中区は何が出来るのか、中区の中で市民団体は何が出来るのかと広い視野で活動出来る人材の育成に努めたいと考えた。講座内容は、全国で活動している浜松のＮＰＯの事例発表や浜松市以外の視察を行うなどを考えている。

2）ＮＰＯ運営講座の開催（講座3回）

これからＮＰＯを立ち上げたい、または、活動を続けてきたが滞っている人のために会計実務やマネージメント、情報発信講座など全3回開催する。

3）区協議会との「出張出前相談・意見交換会」の開催

地方自治法で「協議会こそ市民協働の要にならなければならない。」と記されているように、市民協働センターになる以上は、協議会とも連携を取りながらセンター運営を進めていく必要がある。将来的にはそれぞれの区に市民協働センターのサテライトのようなものが必要ではないかということも研究をしていきたい。

4）市民活動のつなぎ役の支援・新たな出会いが生まれる場所、コラボレーションのためのプラットホーム

分かりやすい言葉で言うと『まちの縁側』にしていきたい。みなさんが気軽に用がなくても来てもらえる場としていろいろな話をしたり、相談を受けながらコミュニケーションを深めたい。

2．施設の利用率の向上
1）活動ＰＲ・展示
　1階部分は、今まで通りみなさんの活動のＰＲの場としてどんどん利用していただきたい。
2）地域のアンテナショップ実験
　市役所には、チャレンジショップという店で障害者の物がたくさん売られている。センターにも障害者の就労のための場としてそういうものがあってもいいのではないかと考えている。
3）市民活動団体の活動拠点提供の研究・試行
　私もそうだったが、ＮＰＯを立ち上げるとき事務所を借りる経費がなく、自宅を事務所にした経緯がある。アトリエをパーテーションで区切りＮＰＯの事務所として貸出したい。いろいろな市民団体のみなさんが常に居てくれればアドバイスも受けられ、まさに市民協働に繋がるのではと思う。しかし、正式な条例にして料金をいだたくまでは大変な作業がある。みなさんの意見を聞きながら進めていきたい。
3．市民協働の推進について
1）市民協働の情報提供
　ホームページを立ち上げ、広報誌も発行していきたい。まず考えているのは、広報誌でみなさんがどんな活動をされているのか多くのみなさんに知っていただくため、一団体ずつ取り上げてＰＲしたい。
2）相談業務、コーディネート等
3）市民協働連絡会（仮称）の開催
　お茶会のような雰囲気の連絡会を半年に1回行っていきたい。
・運営委員会の設置
　行政や企業、特にロータリークラブやライオンズクラブといった社会貢献活動を行っている企業や大学教授、ＮＰＯにも入っていただき、みなさんの使いやすいよう施設を改正していく。
4）市民協働事業プレゼンテーション・フォーラム（仮称）の開催
　市が行っている「たねからみのり」をもう少し拡大し、市民の提案に対し、市役所はもちろん、ライオンズクラブ、ロータリークラブにも声をかけ、バックアップしてくれる企業が生まれてくれればと思っている。もちろん役所との協働については「たねからみのり」へ誘導する。
4．地域活動への支援等（区協議会との協働）
1）区協議会との市民協働意見交換会の開催
　それぞれの区協議会の会長、副会長と市民団体のみなさんの意見交換会を行ないたい。
2）浜松市各区の枠を超えた「区協議会交流フォーラム（仮称）」の開催支援
　市民協働センター祭の目玉として協議会のメンバーに集まっていただき、この場所で意見交換をする場を作りたい。
5．自主事業
・市民アートギャラリー事業
　私が障害者に関わってきたこともあり、障害がある人のアートギャラリー、または、浜松は外国人がたくさんいるので外国人のアートギャラリーなどをこの2階のスペースを使ってやってみたい。
・水と森を守り、ＣＯ2を削減する森林保全　チャリティ事業
　個人的に環境を守ることにすごく興味があり、自主事業としてやっていきたい。
・てんはまエコミュージアム「天竜川秋葉道プラットホーム（仮称）」構築事業
・思春期講座
　4月からこの3階に男女共同参画の指定管理者が入る。思春期の子どもたちに命がどれほど大切でその命を知ったときに、あらゆる差別、偏見があってはいけないということを中高生に伝える手法を考えていきたい。
・手作り物品販売、自販機
　障害者の手作り物品の販売、あるいは北遠で埋もれている間伐材を使った製品の販売。また、多くの人に利用していただけるように自販機を1階に移動する。

（質問）協働とは協力して行動していこうという意味だと思っている。協働という意味をどう捉えているか。
（回答）私もその通りだと思う。強制的にということではなく自ら進んでということだと思う。例えば、2つのＮＰＯが来たときに必ず一緒にやらなければいけないことではない、でも接点があれば時々協力する。そんなところだと思う。
（質問）パレットとの関係はどうしていくのか。

(回答) パレットを指定管理している理事長とも大変親しくしているので、パレットと密に連絡を取り、それぞれを補う形でやっていきたい。目的は同じだが同じようなことをしていては仕方ないので、重複しないようにやっていく。
(質問) 区協議会を傍聴したことはあるか。
(回答) 私は去年の今頃、市役所を退職した。中区の協議会の担当だった。その前は浜北総合事務所に居たので浜北の協議会も傍聴したし、会長だけが集まる会議も傍聴したことがある。せっかく作った協議会をもっと機能するようにセンターが間に入って何かやっていきたい。
(質問) 月に2回センターを利用している。今後、研修室を利用するにあたり、予約方法、料金など変更はないとは伺ったが実際に変わることはあるか。
(回答) 市役所の条例に定められているので一切変更はない。一つだけ、今まで火曜日の夜間は利用出来なかったが利用出来るようになる。
(質問) ＮＰＯのことばかり言っていている話ぶりだった。それ以外の団体のことが気になった。
(回答) 市民団体の一つの例としてＮＰＯを挙げた。決してＮＰＯだけということではなく、例えば自治会から夏祭りの相談を受けたら一緒になって考えていく存在になりたい。
(質問) どういう人材を育成したいのか具体的な考えを聞かせてほしい。また、市民活動が活発になれば協働という言葉はいずれ無くなる。なんで今協働をしなければいけないのかということをきちんと考えておく必要があるのではないか。協働という概念を考えたなかで、これからのセンターのあり方、活動内容が出てこなければいけないと思う。
(回答) アドバイスとして受け止めさせていただきたい。人材育成については、2つのものをコーディネート出来る人材、例えばＮＰＯと企業をコーディネートできる人材の育成、より広い視野を持ちながら地域のことを実践していく人材の育成に特化したい。夢としては、地域自治振興課と連携し、センター推薦の協議会委員を講座を受けた人の中から推薦できるようなことが出来たらと思う。